

# 経営学史学会通信

第4号 1997年10月

## 1998年度における経営学史学会の大会にむけて

理事長 加藤勝康

本年度の経営学史学会第5回大会は、6月6日から8日にかけて関西大学において開催されました。大橋昭一大会委員長をはじめとする関西大学の諸先生の周到な用意とご努力によって、内容のある議論が展開され、豊かな成果を着実に積み上げることができましたことは、大変喜ばしいことでもあります。あらためて主催校のご協力に対しまして心から御礼申し上げます。

また、会員総会において、1998年度の第6回大会は5月22日から24日にかけて青森公立大学において開催されることが決まりました。統一論題については、理事会および運営委員会の議を経て、主催校から提案された「経営学史研究の意義とその課題」をふまえ、経営学の理論展開においてこれまでに大きな影響力を与えたさまざまな学派または理論のもつそれぞれの意義と課題について、経営学史的観点からの議論を深めることにしてはどうであろうか、ということになりました。

さらに大会最終日（5月24日）午後のシンポジウムには、外国からの研究者を1名招き日本の研究者と共に上記統一論題についての報告・討論を行うことも企画されております。会員諸先生の積極的な参加を期待しております。

経営学史研究は、経営学における諸理論研究の基盤であり、経営学は勿論すべての学問は、それまでに蓄積されてきた成果の上に築かれるという意味でも、学問の歴史はまさに学問そのものでありましょう。経営学における理論の現況は“management theory jungle”の様相を呈しているという問題提起がなされてから久しい時間が流れております。一方では、新しい理論が新しい経営実践に呼応して次々に生まれ、やがてその影響力を失うという paradigm shift が繰り返されております。他方では、経営諸機能に関わる理論の精緻化と細分化が進み、それぞれに成果が積み上げられております。そのような理論領域の細分化に対応して、近時、経営学関係の諸学会の設立が相次ぐという状況が見られます。それはそれで経営学の発展にとって喜ばしいことでもあります。しかしながら、それとともに、人間協働という経営体を全体的に把握すべき“unified theory”の必要性も一段と高まってくるでありましょう。

このような課題に向かって学問的基盤を着実に積み上げてゆくことは、経営学史学会の重要な課題の一つではなかろうかと考えておりますが、いかがでありましょうか。

## 第5回大会をふりかえって

経営学史学会第5回大会は、1997年6月6日（金）から8日（日）まで関西大学千里山キャンパスで開催された。6日夕方は理事会。7日午前中は、A会場、B会場にわかれ自由論題で4人の報告がなされた。7日午後と8日午前は、二つ設定された統一テーマの一つ「経営学研究のフロンティア」で5人の報告がなされた。8日午後は、もう一つのテーマ「日本の経営者の経営思想」で、現役経営者を含む特別ゲストを招いてのシンポジウムが行われた。関西財界を代表する住友電気工業取締役会長川上哲郎氏、日本の経営者の研究に造詣が深い清水龍瑩教授と森川英正教授を招いての上記テーマをめぐるシンポは、初めての試みであったが、フロアとの質疑も行われ大変興味ぶかいものとなった。

今年度からの大会運営について強調しておかねばならない特徴は、討論を活発化させるために出席申し込み者に予稿集が予め送られる工夫がなされたことである。このため、報告者は、20分以上の討論時間を保障するため、聴衆者がすでにそれを読み終わっていることを前提に40分以内で報告を終了することが義務づけられたこと。さらに、従来の司会をチェアパーソンと改称し、報告内容における論点を明確に指摘するなど討論をリードしてゆく役割をもつものとされた。こうした工夫は、今回の討論を従来よりもはるかに活発にしたと思われる。最後に、第5回大会を組織された関西大学所属の大橋昭一教授、奥田幸助教授をはじめとする諸会員のきめ細かな組織運営に、心からの感謝の念を記しておく。

（幹事 高橋由明 記）

## 1997年度会員総会議事要録

1997年度会員総会は、第5回大会二日目の6月7日（土）午後4時20分から開催され、以下のような理事会案が提案・報告され、審議の後了承・承認された。

議事に先立ち、亡くなられた2名の会員のご冥福を祈り、黙祷を捧げた。

1) 1996年度活動報告：(1)第4回大会の実施、(2)役員改選、(3)年報第3輯『日本の経営学を築いた人びと』の発行、(4)年報の販売促進活動、(5)会員名簿の作成、(6)「経営学史学会通信」第3号の発行、(7)会員の研究活動に対する資金援助（3件）、(8)日本学術会議への加盟と会員候補の推薦について報告がなされ、承認を得た。

2) 1996年度収支決算（案）：理事会で承認された収支決算（案）（別記参照）が詳細に報告、説明され、原案通り承認を得た。

3) 会計監査報告：1996年度収支決算報告を監査した結果、適正に処理されていることを承認したとの報告がなされ、承認された。

4) 1997年度活動計画（案）：(1)第5回大会の開催、(2)理事会・運営委員会・年報編集委員会の開催予定、(3)年報第4輯『アメリカ経営学の潮流』の刊行、(4)「経営学史学会通信」第4号の発行、(5)会員の研究活動に対する資金援助、(6)学会創立10周年記念大会のための準備金積み立ての開始、(7)第6回大会の主催校と期日、(8)日本経済学会連合への加盟、を柱とする1997年度の活動計画について詳細な報告がなされ、満場の拍手をもって、承認を得た。

5) 1997年度予算（案）：理事会で承認された1997年度収支予算（案）が、詳細な説明を加えられつつ提案され、原案通り承認を得た。

6) 新入会員、退会者の承認：新入会員12名（内訳：普通会员11名、院生会員1名）、退会者2名、自然退会者2名が報告、承認された。物故会員は2名であり、その結果、1997年6月6日現在の会員総数は過去最高の291名となることが報告された。

7) 第6回大会（1998年度）について：主催校：青森公立大学、期日：1998年5月22日（金：理事会）、23日（土：報告）、24日（日：報告）として、次期第6回大会を開催するとの報告があり、主催校を代表して吉原正彦幹事が挨拶した。盛大な拍手により承認された。統一論題については、運営委員会、理事会で議論を重ねており、その結果を会員通信等で連絡させていただく旨の報告、提案がなされ、承認を得た。（幹事 伊藤研一 記）

## 年報第4輯『アメリカ経営学の潮流』の刊行

本学会の年報第4輯が刊行され、関西大学での第5回大会に参加された会員には会場で配布いたしました。また、大会に欠席された方には、後日、郵送いたしました。第4輯は論文が12本で186ページ、文献は12本で34ページ、総ページ数234ページとなっております。

年報第4輯は、アメリカ経営学の発展の流れを追っていますので、講義やゼミでもテキストとして使いやすくなっています。とくに、文献が充実しておりますので、学生や院生の論文指導に大いに役立つものと思われまます。

経営学史学会の年報も巻を重ね、叢書の形が整ってくるにしたがって、かなり高い評価を得ることができるようになってきました。専門書ですので売行き絶好調とは行きませんが、各巻の残部も少しづつ少なくなってきました。年報編集委員会では今後とも、レベルの高い年報の刊行に努力いたします。会員各位におかれましても、年報の販売促進にご協力下さいますようお願い申し上げます。

## 年報第1輯～第3輯の残部、多少あります

年報第1輯『経営学の位相』（1994年5月発行）

年報第2輯『経営学の巨人』（1995年5月発行）

年報第3輯『日本の経営学を築いた人びと』（1996年5月発行）

93年の学会創設時から会員である方は既刊分を揃えてお持ちですが、その後入会された方で年報のラックを埋めたい方は、発行元である文眞堂に直接、御注文下さい。ニックリッシュ、バーナード、マルクスを取り上げた第2輯の残部が特に僅かで、間もなく品切れとなります。ご希望の方はお早めに御注文下さい。

## 1997年度学会費納入のお願い

経営学史学会は1997年4月1日から97年度に入りましたので、97年度の学会費の納入をお願いいたします。金額は下記の通りです。学会事務局からお送りいたしました振替用紙を使って、振り込んで下さい。小切手あるいは現金での事務局宛送金は、事務処理上、困りますのでお止め下さい。なお、領収書は振替払込書の振込票をもって代えさせていただきますので、少なくとも1年間は振替票を大切に保管して下さい。研究費等の関係で、学会事務局発行の領収書を必要とされる方は、事務局にご請求下さい。

- 学会費
- 1) 普通会員：¥6,000
  - 2) 院生会員：¥3,000（大学院前期課程在籍者と研究生）
  - 3) 終身会員：60歳台；¥30,000  
70歳台；¥20,000
  - 4) 賛助会員：（1口）¥20,000

# 1996年度収支決算

自：1996年4月1日  
至：1997年3月31日

(単位：円)

収入の部		支出の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
前年度繰越金	159,901	第4回大会費	100,000
過年度会費Ⅱ	177,000	年報第3輯買上げ費Ⅱ	425,658
96年度会費Ⅱ	1,300,000	年報第4輯買上げ引当金	300,000
97年度会費前納Ⅲ	24,000	名簿作成費Ⅳ	65,108
終身会員会費特別会計	119,000	年報発送費	83,240
賛助会員会費(3名)	40,000	郵便・通信費	48,810
雑収入	1,304	印刷費(学会通信作成費)	44,805
(以下余白)		会議費・交通費	100,000
		事務局費	45,782
		予備費	—
		名簿・学会通信発送費	54,530
		研究活動援助金(3口)	60,000
		会費振込み手数料	12,570
		雑費	0
		次年度繰越金	480,702
合 計	1,821,205	合 計	1,821,205

## 1996年度終身会員会費

(単位：円)

収 入		支 出	
前年度繰越金	573,000	93年度繰越金	81,000
60歳代(1名)	30,000	94年度繰越金	29,000
(以下余白)		95年度繰越金	6,000
		96年度繰越金	3,000
		次年度繰越金	484,000
合 計	603,000	合 計	603,000



# 1997年度予算

自：1997年4月1日

至：1998年3月31日

(単位：円)

収入の部		支出の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
前年度繰越金	480,702	第5回大会費	100,000
97年度会費Ⅱ	1,038,000	年報第4輯買上げ費	450,000
過年度会費Ⅱ	156,000	年報第5輯買上げ引当	300,000
98年度会費前納	0	年報発送費	90,000
終身会員会費特別会計より	128,000	学会通信制作費	50,000
賛助会員会費	40,000	学会通信発送費	40,000
雑収入	1,000	名簿作成引当金Ⅱ	60,000
	(以下余白)	研究活動援助金(3口)	60,000
		会議費・交通費	120,000
		郵便・通信費	50,000
		会費振込み手数料	20,000
		前10周年記念引当金Ⅱ	200,000
		事務局費	60,000
		予備費	100,000
		次年度繰越金	143,702
合 計	1,843,702	合 計	1,843,702

## 1997年度終身会員会費特別会計

収 入		支 出	
前年度繰越金	484,000	過年度分の振替Ⅲ	119,000
60歳代(3名)	90,000	本年度分の振替Ⅳ	9,000
(以下余白)		次年度繰越金	446,000
合 計	574,000	合 計	574,000

## 1998年度・第6回大会の企画

### 1. 開催日と開催地

来年度の第6回大会は、5月22日（金：理事会）、23日（土：自由論題・統一論題）、24日（日：統一論題・シンポジウム）の日程で、青森公立大学（大会委員長：吉原正彦）で開催されます。開催地の青森は必ずしも便利な所ではありませんが、その時期、新緑が大変まぶしい頃で、会員の皆様を受け入れる自然は申し分ないと思われまます。

### 2. 統一論題の決定

第6回大会の統一論題は、開催校の意向を受けて、理事会および運営委員会で幾たびかの議論を重ねた結果、「経営学史研究の意義とその課題」となりました。この統一論題の趣旨は、各研究者が日頃から抱えている経営学史研究の意義とそのもつさまざまな課題を議論しあい、経営学史研究の魅力を確認するとともに、経営学への貢献を目指すものです。

統一論題の具体的な内容として、次のような企画を考えております。すなわち、個別の論者や学説にとらわれずに、経営学史上に登場し、大きな影響を与えたり、注目された学派や理論タイプを取り上げ、それらの経営学史上における位置づけ、意義や貢献、そして限界、経営学の課題などについて報告していただき、討論します。想定している学派ないし理論タイプは、プロセス・スクール、コンティンジェンシー理論、戦略論、組織論、あいまい理論・複雑系などです。

そして、これらの報告および討論を受け継いで、最終日の24日午後のシンポジウムにおいて、外国の研究者1名を招き、日本の研究者2名を交えて、統一論題についての報告と討論を行います。

報告者の人選については、理事会を中心として行われておりますが、統一論題の報告者として相応しい方、あるいは是非とも聞いてみたいと考える方がいらっしゃれば、遠慮なく理事の先生方に直接、あるいは学会事務局にハガキでご連絡ください。

### 3. 自由論題への報告募集

自由論題については、23日の午前中に、6名の報告者を予定しております。自由論題ゆえに、ユニークで刺激的な報告が期待されるものであります。自薦、他薦を問いません。特に、若手研究者や大学院生の積極的な応募を待っております。報告を希望される方および他薦をお考えの方は、できるだけ早く、理事の先生方に直接、あるいは学会事務局までハガキでご連絡ください。

### 4. 報告と質疑の時間

大会会場での議論を活発にするために、大会参加を予定される会員に、予め報告集をお届けいたします。事前配布を行うことから、統一論題では、報告30分、質疑応答30分とし、自由論題では、報告40分、質疑応答20分を考えております。参加される前に報告集をお読みいただき、会場では論点を絞り込んで活発な議論を展開していただきたいと願っております。

（幹事 吉原正彦 記）

## 報告希望者の募集

経営学史学会第6回大会は、98年5月に青森公立大学で、「経営学史研究の意義とその課題」を統一テーマにして開催されます。その企画の大まかな内容は上記の通りです。運営委員会と理事会では、統一論題の8人の報告者とチェア・パーソンをどなたにお願いするか、いろいろと検討しております。また、自由論題についても4人あるいは6人の人選を急いでおります。

理事会では、報告希望者、特に若手研究者や院生会員の自由論題報告者を募っております。報告を希望される方、あの人の報告を聞きたいというご希望など、自薦ならびに他薦をどしどし学会事務局にお寄せ下さい。希望者多数の場合には、特に自由論題については若手優先ということで決めさせていただきますので、予めご了承下さい。

## 会員の研究活動に対する資金援助

96年度から、会員の研究活動を奨励するために、学会が資金援助することになりました。昨年度は、次の3件の申込があり、それぞれ2万円の援助金が交付されました。

(1) P.グラハム氏講演会 (フォレット協会10周年記念講演会)

96年7月31日, 青山学院大学

代表者: 榎本世彦会員

(2) G.シャンツ教授講演会

96年11月9日, 関西大学

代表者: 大橋昭一会員

(3) バーナード研究のフロンティア

97年3月26日, 日本大学

代表者: 三戸 公会員

今年度も、このような学会からの資金援助を3件、予算化しております。1件2万円と金額的には少ないですが、研究会や講演会の連絡などに使っていただければ幸いです。申込用紙は事務局にありますので、どうぞ奮ってお申し込み下さい。

### 新入会員・退会者・物故会員

1997年6月6日の理事会で承認された新入会員は次の12名の方々です。退会者は4名です(1名は再入会されました)。

#### 新入会員

氏名	所属機関	専攻分野
安達房子	立命館大学大学院前期課程	経営組織論
阿部敏哉	青森公立大学	経営管理論
磯村和人	福島大学	組織論
岩橋建治	関西大学大学院後期課程	産業社会学
岡山礼子	文京女子大学	経営労務論
小原久美子	関西女学院短期大学	管理論・組織論
佐藤一彦	秋田桂城短期大学	中小企業論
杉山 博	明治学院大学大学院後期課程	経営組織論
中村秋生	青森中央短期大学	経営管理論
野末英俊	秋田桂城短期大学	経営管理論
広田俊郎	関西大学	経営組織論・戦略論
藤井一弘	甲子園大学	経営管理論・組織論

#### 退会者

希望退会: 一条淳弥, 雲嶋良雄

自然退会: 柿崎洋一, 永山庸男

再入会: 柿崎洋一

#### 物故者

1996年5月19日から1997年6月8日までの間に亡くなられた会員は、次のの方々です。謹んで、ご冥福をお祈りいたします。

青柳哲也 (関東学院大学), 1996年12月24日

工藤達男 (専修大学), 1997年4月2日

以上の結果、1997年8月末現在、会員総数は292名となりました。

## 会員名簿の訂正・追加

背柳哲也 (削除)  
 安達房子 (住所)  
 磯村和人 (住所変更)  
 稲葉 義 (所属訂正)  
 稲福善男 (所属変更)  
 稲村 毅 (所属変更)  
 今村寛治 (住所変更)  
 岩橋建治 (住所)  
 大橋昭一 (住所変更)  
 岡山礼子 (住所)  
 小原久美子 (住所)  
 片岡 進 (所属・住所変更)

工藤遼男 (削除)  
 蛭嶋良雄 (削除)  
 今野 登 (住所変更)  
 佐野雄一郎 (所属変更)  
 澤田善次郎 (所属・住所変更)  
 澤田 幹 (住所変更)  
 塩見芳則 (住所変更)  
 杉山 博 (住所)  
 寺石雅英 (住所変更)  
 中村秋生 (住所)  
 永山庸男 (削除)  
 西川清之 (所属・住所変更)  
 野末英俊 (住所変更)  
 広田俊郎 (住所)  
 藤井一弘 (住所)  
 二村敏子 (所属変更)  
 前田東枝 (所属・住所変更)  
 増田正勝 (住所変更)  
 三井 泉 (住所変更)  
 宮崎信二 (住所変更)  
 横沢利昌 (住所変更)  
 吉原正彦 (住所変更)

### 編集後記

年次大会が終わり、年報を発送し事務処理を片づけてから、編集委員会を開いてもらって次の年報の執筆者に依頼する。同時に、運営委員会で次の大会の企画を議論してもらって、その結果を理事会(回議)に諮って、ご意見を伺ってから学会通信の記事を書き、まとめる。このような手順で学会通信の作成に取りかかると、毎年、作業は夏休みということになります。院生会員が少しずつ増えてきているのは結構なことです。どうぞ、奮って自由論題報告に名乗りを上げて下さい。(総務担当 佐々木恒男 記)

発行所 経 営 学 史 学 会

事務局 〒101 東京都千代田区神田駿河台1-1  
 明治大学研究棟639号室(共同研究室)

TEL 03-3296-2081

FAX 03-3296-2350